

「ケヤキの大木に学ぶ (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

植物には知能も知恵もない。今植物が持っている形態や機能は、長い進化の歴史の中で、変異・淘汰され、生育環境の中で、最も適した形になった結果である。しかし、植物の中には、「知恵」というほかないような、非常に興味深い観察ができるものもある。

郊外園にダイコン掘りに行った時、お弁当のあとで、農園のすぐとなりの市営公園で、2年生と5年生が少し遊ぶ時間があつた。公園の入口には、見事なケヤキの大木がある。ケヤキに限らず樹木は、周囲に邪魔するものが何もない場所では、枝が四方に伸びて、その樹木本来の形状(自形)となる。この公園の木も、典型的なケヤキの樹容を呈していた。



樹齢は 50 年を超えているだろう。このあたりに、まだ「武蔵野の面影」が残っていた頃からある木にちがいない。そうすると、このケヤキの大木の「生い立ち」を調べたくなってきた。国土地理院から、過去の航空写真を取り寄せてみた。○が写真のケヤキである。



1978 年当時の航空写真である。カラーで入手可能な最も古い航空写真だ。この頃、公園は広い更地で、ケヤキの姿もまだ小さい。



1991 年の写真には、丸い樹容のケヤキが写っている。周囲は広い農場になっている。農場のシンボルだったにちがいない。



2008 年の写真。ケヤキが建物のすき間で、窮屈そうにしている。しかし、成長しているのがわかる。



2014 年冬の写真。建物は撤去され、のびのびと枝を伸ばしている。このケヤキの「生い立ち」がよくわかった。(つづく)